

【平成 30 年度の主要事業について】

まちづくりの最上位計画である「第 5 期奥多摩町長期総合計画」の施策の大綱に沿って、平成 30 年度予算で特に重点としている施策や新規事業について説明します。

第 5 期長期総合計画 第 1 章「みんなで支えるホットなまちづくり」

○誰もが元気で健康に暮らせる地域づくり

町民が健康で幸せな生活を送ることができるよう、各種の健康診査・検診事業、保健推進活動事業、定期予防接種事業、食育推進事業、健康相談事業などの疾病予防につながる事業を引き続き実施するほか、国民健康保険、介護保険においては、制度改正が行われることから、適切な事業運営が図られるよう、着実に進めてまいります。

○安心して子どもを産み育てる地域づくり

核家族化や共働き家庭の増加などにより、子どもや子育てで家庭を取り巻く環境が大きく変化する中、過疎化による少子高齢化が進む当町においては、高齢化率は 49% と非常に高い状況にあることから、出会いから結婚、出産、子育て・子育てまできめ細やかな支援を行ってまいります。

特に、重点施策の一つとしている少子化定住化対策は、保育料の全額助成、小・中学校給食費の全額助成、高校生までの医療費の全額助成、高校生への通学定期代の全額助成、産後健康診査への助成などの 15 項目に及ぶ子ども・子育て支援推進事業を制度の見直しを図りつつ推進するほか、住宅の新築や改築に対して支援する若者定住応援の助成を推進するなどし、町内在住の家庭はもちろんのこと、移住者への支援も合わせて行うことにより、子どもや子育て世代の増加を図り、自治会等の地域コミュニティの維持、活力の向上に努めてまいります。

○高齢者が生きがいを持って暮らせる地域づくり

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、保健師等の町職員、地域包括支援センター職員、高齢者見守り相談員、社会福祉協議会、民生・児童委員等が連携を行いながら、高齢者見守り相談事業、外出支援サービス事業等を引き続き推進するとともに、介護保険事業では平成 30 年度からスタートいたします

第 7 期介護保険事業計画に基づき、事業を着実に進めてまいります。

○障害者が自立して生活できる地域づくり

障害者が安心して地域の中で自立した生活を送ることができるよう、医療・福祉などとの連携や継続的な支援相談体制が重要となります。平成 29 年度に策定いたしました新たな障害者計画・障害福祉計画に基づき、障害者を対象とした地域活動支援センターの充実や、在宅心身障害者福祉手当給付事業、障害者総合支援事業などを実施し、障害のある人が必要なサービスを受けられるよう、また、社会参加が図られるよう、引き続き進めてまいります。

○心のぬくもりと絆を持ち続けられる地域づくり

当町では、地域での交流や、隣近所での支えあい・助け合いなどが都会に比べて今も息づいているものの、少子高齢化等の影響により、これまで通りの地域での支えあいが困難となることも想定されます。引き続き地域の中で支えあいながら安心して暮らすことができるよう、通院や買い物等の移動支援の一つである地域ささえあいボランティア事業を進めるとともに、人にやさしい道づくり事業や福祉モノレール事業を推進し、高齢者や障害者だけでなく誰もが安全で安心して利用できる、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを推進してまいります。また、平成 27 年度の町制施行 60 周年を記念して誕生した奥多摩町イメージキャラクター「わさぴー」は、誰でもイラストや着ぐるみを使用することができることから、これまで、パンフレットや冊子、キャラクターグッズなどで活用され、広く認知されるようになってまいりました。今後も、奥多摩町の魅力の発信、制度の PR 等にわさぴーを活用し、地域の活性化につなげてまいります。

第 2 章「やさしさ ふれあい 人と自然」

○自然とともに歩むまちづくり

当町は、豊かな森林資源や水資源に恵まれ、町内全域が秩父多摩甲斐国立公園に含まれていることから、そのような環境を大切に保全していくために、多摩の森林再生事業による森林の間伐事業、水の浸透を高める枝打ち

事業による立木の枝打ち事業により、森林や山の健全な保全に努めてまいります。

平成 28 年度に全区域が供用開始となった下水道事業では、各家庭や各事業所における速やかな公共下水道へ

[<つぎのページ左上に続く>](#)